

準支部として日常活動も

日刊 動労千葉

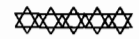
1988.7.1
No. 2848

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

営業業協働協議会

第2回拡大役員会開催



六月二十八日、動労千葉営業協議会の第二回の拡大代表者会議が本部において開催された。会議は、本部執行部と各地区営業協議会役員が参加し、長田副議長の司会で始められ、四波のストライキの総括と、今後の営業協議会の任務と課題について討論された。



第二ラウンドの闘いを！！

会議の冒頭に、本部を代表して次のようなあいさつを水野副委員長から受けた。「動労千葉は、JR当局の攻撃を全面的に受けとめて、長期波状ストライキに決起した。そして、われわれの闘いが一巡したいま、当局内では内部矛盾が吹き出してきた。そうした敵の動きを見ながらわれわれは、夏期輸送をも見据えての第二ラウンドの闘いを準備している。どうではないか。敵は、ダメージを受けつつ「松崎と河野」を先兵として、運転職場を中心とした悪らつな攻撃を止めることはない。今後ますます激化することだろう。動労千葉の『営業』の連続した勝利的な闘いを、『運転本体』の闘いへ結びつけよう。営業協議会は動労千葉を支える強力な部隊だ。これからもさらに組織を強化してほしう」

準支部として日常活動を強化しよう！！

会議は、続いて佐藤議長の「総括と提起」に移った。
四波にわたったストライキは大勝利した。この間の闘いでかちとった成果には大きなものがある。一つには、営業配転者の毅然たる決起だ。たった一人でストライキに突入し、当局を向こうに回しての闘いは偉大だ。
二つには、強固な団結、組織の強化をかちとったということだ。四波のストライキに結集したのべ九百名の組合員の怒りは一点に集中した。闘いは完全に勝利した。
三つには、われわれのこの闘いが全国鉄労働者、支援労働者に勝利への道を指し示したことだ。そして四つには、ストライキ絶滅をかかげていた鉄道労連、革マル、JR当局に大打撃を与えたことである。

ろうきんの期日指定定期

初めてのボーナスで貯蓄に挑戦。1年複利で高利回り、1年たてば引き出し自由の、有利で便利なワイド定期なら、貯蓄初級者にも手軽にチャレンジ。仕事に自信がつくころ、初ボーナスは大きく増えています。貯蓄にも、きつと自信がつくことでしょう。

1年、長いかわりか、短いかわりか。ボーナス

一時金はろうきんへ

88ろうきん夏季キャンペーン実施中！！

R ろうきん

こうしたなかで、われわれの闘いに追いつめられたJR当局、特に千葉支社当局は、河野自らが動労千葉つぶし攻撃に拍車をかけざるを得ず、さらに攻撃を強めてくることは明白だ。
営業協議会の任務は重大だ。支部に準ずる組織として、今後も日常活動の強化をはかり、いつでもどこでもストライキに突入できる体制をさらに強化させていこう。
以上の総括とこれからの闘いを全員で確認し、今後の課題を討論して会議は終了した。